

第107回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	売掛金	車両運搬具
備品	前払利息	未払金	仮払法人税等
未払法人税等	法人税等	租税公課	有価証券利息
支払利息	福利厚生費	損益	売買目的有価証券
有価証券売却損	有価証券売却益	有価証券評価益	有価証券評価損
仕入	従業員預り金	前受金	

1. 堀商事株式会社は、売買目的で所有していた Z 債券 10,000 口（取得原価 ¥ 980,000 ）のうち 5,000 口を @ ¥ 99 にて売却し、端数利息 ¥ 4,000 とともに現金で受け取った。
2. 伊達商事株式会社は、決算時に、法人税 ¥ 1,000,000 、住民税 ¥ 500,000 、事業税（所得課税分）¥ 200,000 を確定した。なお、期中に中間納付した額（仮払処理済み）として、法人税 ¥ 600,000 、住民税 ¥ 300,000 、事業税（所得課税分）¥ 100,000 がある。
3. 藤堂商事株式会社は、従業員給料を支払った際に控除していた源泉所得税 ¥ 200,000 、住民税 ¥ 120,000 、および社会保険料 ¥ 40,000 について、社会保険料の会社負担分 ¥ 40,000 とあわせて ¥ 400,000 を現金で納付した。
4. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
5. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金	499,000	売買目的有価証券 有価証券売却益 有価証券利息	490,000 5,000 4,000
2	法人税等	1,700,000	仮払法人税等 未払法人税等	1,000,000 700,000
3	従業員預り金 福利厚生費	360,000 40,000	現金	400,000
4	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
5	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			

・解説

1. 有価証券の売却に関する問題です。

本問は「有価証券利息を受け取った仕訳」と「売買目的有価証券を売却した仕訳」を分けて考えましょう。

まず「有価証券利息を受け取った仕訳」を考えますが、こちらは簡単です。問題文に「端数利息 円 4,000 とともに現金で受け取った」とあるので、そのまま仕訳を切るだけです。

★解答①

(借) 現金 4,000 / (貸) 有価証券利息 4,000

次に「売買目的有価証券を売却した仕訳」を考えますが、こちらも簡単なので特に問題はないと思います。有価証券の売却損益は、**帳簿価額と売却価額の差額**で求めます。

■有価証券の帳簿価額 = $980,000 \text{ 円} \div 10,000 \text{ 口} \times 5,000 \text{ 口} = 490,000 \text{ 円}$

■有価証券の売却価額 = $5,000 \text{ 口} \times @99 \text{ 円} = 495,000 \text{ 円}$

■差額 = 5,000 円 (帳簿価額 < 売却価額…売却益)

★解答②

(借) 現金 495,000 / (貸) 売買目的有価証券 490,000
(貸) 有価証券売却益 5,000

最後に①②の仕訳をまとめると解答仕訳になります。

有価証券の売却に関する問題は、第105回の間2や第111回の間1、第113回の間2、第116回の間2、第118回の間4、第119回の間3、第121回の間2、第122回の間3、第125回の間2、第133回の間2、第137回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 法人税等に関する問題です。

本問に限らず、日商簿記検定 2 級の第 1 問で出題される法人税等に関する仕訳問題は、必ず中間納付が絡んでくるので、先に中間納付時の仕訳を書き出してから解答すべき仕訳を考えましょう。

☆参考・中間納付時の仕訳

(借) 仮払法人税等 1,000,000 / (貸) 現金など 1,000,000

上記の中間納付時の仕訳を考慮したうえで、解答すべき仕訳を考えます。具体的には、借方に計上されている仮払法人税等勘定を貸方に計上して相殺消去し、確定した法人税等の額（問題文で与えられます）を法人税等勘定を使って借方に計上し、貸借差額を未払法人税等勘定で処理します。

★解答・決算時の仕訳

(借) 法人税等 1,700,000 / (貸) 仮払法人税等 1,000,000
(貸) 未払法人税等 700,000

法人税等に関する問題は、第 102 回の間 2や第 112 回の間 3、第 113 回の間 3、第 119 回の間 4、第 122 回の間 5、第 127 回の間 5、第 136 回の間 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 社会保険料の納付に関する問題です。

まず、問題文に「従業員給料を支払った際に控除していた源泉所得税 ￥ 200,000、住民税 ￥ 120,000、および社会保険料 ￥ 40,000」とあるので、当社は従業員に給料を支払った際に、従業員が負担すべき税金 360,000 円を預かっていたことが分かります。

☆参考・従業員に給料を支払ったときの仕訳

(借) 給料 ***** / (貸) 従業員預り金 360,000
(貸) 現金など *****

上記の仕訳を踏まえたうえで、今回問われている【税金を納付したときの仕訳】を考えていきます。従業員から預かっていた 360,000 円分については、従業員預り金勘定を減額させるとともに、会社が負担すべき社会保険料 20,000 円については、福利厚生費勘定を使って費用処理します。

★解答・税金を納付したときの仕訳

(借) 従業員預り金 360,000 / (貸) 現金 400,000
(借) 福利厚生費 40,000

社会保険料の納付に関する問題は、第 106 回の間 3や第 115 回の間 4、第 135 回の間 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

5. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)